



2015～16 年度
国際ロータリー会長
K. R. ラビンドラ

Weekly Report Niigata



世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16 年度
新潟ロータリークラブ会長
竹石 松次

新潟 RC10 月第 2 例会 (2015.10.13) No.3106

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 竹石 松次 会長挨拶

相馬御風

明治十六年(1883)～昭和二十五年(1950)

糸魚川市生まれ、父徳治郎、母チヨの一人息子、昌治、家は代々神社仏閣建築の棟梁。糸魚川尋常小学校、組合立糸魚川高等小学校入学、十一歳で地元の俳人、歌人の手ほどきを受け俳句、和歌を詠み始める。

号は「窓竹」から中国の詩人蘇東坡の「赤壁賦」から採用したと言われ、「風に御す」、「風を御す」という意味があると言う。

旧制、高田中学(現高田高校)卒、第三高等学校(現京都大学)受験のため京都へ、東京専門学校高等予科(現早稲田大学)入学、同学年に会津八一、野尻抱影、楠山正雄が在籍。

早稲田大学文学部に入学、「明星」をはじめ多くの雑誌に投稿し次第に名前が知られるようになっていった。「ここは御国の何百里」の作者、真下飛泉との交友、与謝野鉄幹とも誌友を得た。そして、和歌革新運動の旗手として活躍していた佐佐木信綱に指導を乞い活動の場を広げていった。

「白鷺の行方を雪に見失ひて 獵夫(さつお)たたずむ 沼の夕暮れ」

が雑誌の懸賞募集で一等に入選、写真入りで紹介された。

御風の初出版、歌集「睡蓮」が明治三十八年(1905)、二十二歳の学生時代に上梓された。三四二首の短歌が収められており自費出版、七百部の費用百十八円八銭は父が捻出した。

御風の名前を世に知らしめた早稲田大学校歌「都の西北」は、大学創立 25 周年を迎えた校歌制定で、審査員の坪内逍遙、島村抱月によって指名されたもので、斎戒沐浴しての珠玉の一作であった。

「都の西北早稲田の森に

聳ゆる薨はわれらが母校

われらが日ごろの抱負を知るや

進取の精神学の独立

現世を忘れぬ久遠の理想

かがやくわれらが行く手を見よや

わせだ わせだ わせだ わせだ

わせだ わせだ わせだ」

御風の功績は数多いが、詩の形式を従来の定型詩から自由詩に重きを置くことを提唱した先駆者としても評価されている。

詩の形式五七五のリズムを持った伝統的な俳句、短歌といった「定型詩」に対し、日常用いている口語で、五音、七音といったリズムを持たないのが「口語自由詩」で、御風はその誕生に大きな役割を果たした。三木露風、野口雨情と共に早稲田詩社を結成、詩歌革新運動を提唱した。

第一、詩の用語は口語であること

第二、旧来の詩調を破壊すること

第三、行(ライン)と連(スタンザ)は自由であること

を提唱、現代人の情緒は日常談話の言葉・口語を用いなさいというのが御風の主張である。

島村抱月、坪内逍遙を生涯の師と仰ぎ、文学や文芸の設立、劇団誕生にも係ってきた。大正二年(1913)島村抱月を中心に発足した「芸術座」で主演松井須磨子によって演じられたトルストイの「復活」で劇中歌「カチューシャの唄」が爆発的な反響を呼んだ。一番を島村抱月、二番が、御風が作詞をし、中山晋平が作曲をした。

御風が中央で活躍したのは、明治三十五年から大正五年までの凡そ十年余りであった。郷里の糸魚川に住居を移した背景には中央での文学に対する熱血漢あふれる論調に精神的な苦痛を感じたから、ふるさとで文学の研究に没頭したい、など様々な要因が挙げられている。

しかし、帰郷と郷里で「生まれ変わった自分」を見出した御風の晩年の生活は新潟県の文化、芸術に多大な貢献をすることとなった。

その一つが、良寛研究である。良寛の自然な生き方に共鳴した御風は、自らの生き方に重ね合わせるが如く良寛研究に勤しみ、「大愚良寛」緒論、出生・幼少の時代から、良寛が辿った俗世間から距離を置いた生き方、人生観を著わした。また、子ども向けの「良寛さま」「良寛房物語」を出版、今日の良寛ブームの先駆者となった。

校友でもあった会津八一は、

「御風が尊敬する良寛は、良寛であると同時に相馬御風自身であった」と述べている。

このほか、昭和十三年（1938）糸魚川の姫川支流の小滝川でそれまでヒスイは中国大陸やミャンマーから伝わったものとみられていたヒスイが発見され、考古学会の常識が覆されたのも御風の働きかけが大きかったと伝わっている。

また、童謡の作詞、校歌の作詞は枚挙に厭わない程で、今なお燦然と輝くその功績はふるさとの誇りとなっている。その生まれ故郷糸魚川に3月14日、北陸新幹線が駆け抜け、新装の糸井川駅を疾走している。

「春よ来い 早く来い
あるきはじめた みいちゃんが
赤い鼻緒のじょじょはいて
おんもへ出たいと待っている
春よ来い 早く来い
おうちのまえの桃の木の
蕾もみんなふくらんで
はよ咲きたいと待っている」

明治、大正、昭和と三代を生き抜き、晩年は食糧事情、用紙の入手困難の中で執筆活動を続けた御風は、昭和二十五年五月ふるさとの糸魚川で亡くなった。六十八歳であった。

(3) ゲストの紹介

蒔谷虹児ご子息 蒔谷龍夫氏

(4) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(織戸 潔委員長)

鈴木 滋弥君 (恒久基金)

米山奨学会寄付発表(小林 敬直委員長)

徳永 昭輝君 鈴木 滋弥君

五十嵐幸雄君

青少年育成基金寄付発表(小林 悟委員長)

本間 彊君 樋熊 紀雄君

小林 悟君

(5) ニコニコボックス紹介

・若杉 武君 結婚記念日のお花ありがとうございました。

・岡田 茂久君 10/1～6 イタリア・ミラノ万博の視察ツアーに行っていました。今回は調理の責任者も同行してイタリアの「食」を満喫していました。道中、JAバンクの町田常務とご一緒になりニコニコです。

・務台 昭彦君 週末10月10日と11日 朱鷺メッセでTeny開局35周年、「新潟一番」20周年を感謝する「てとフェス」を開催し、無事修了することが出来ました。4万人を超える県民の方々において頂きました。たくさんおいで頂きニコニコです。

・長谷川秀彦君 日曜日の新潟シティマラソン、人生初のマラソンでしたが無事3ヶ所の関門をクリアし完走しました。当社職員も31名参加し、全員無事に完走しニコニコです。次は市内ロータリー野球大会に向けて頑張ります。

・新田幸寿君 11日、新潟シティマラソンに出場し、金メダルを貰いました。3年前から始めたランニング、死ぬから止めるとの制止を振り切って初フルマラソンに挑戦しました。20キロ地点から右ふくらはぎの痙攣が始まり徐々に両足全体にひろがり・・・30キロ地点の第6関門にて30秒遅れでバスに収容されてしまいました。35キロ地点で待つ我が家族大応援団は最後のランナーが通り過ぎるまで名も知らぬ老若男女に声援れるまで応援したそうですが、彼らにおじいちゃんの雄姿を見せることは叶いませんでした。3人の孫から大きなボール紙の金メダルを貰いました。ニコニコです。

・海津 博之君 ロータリークラブから結婚記念日のお花いただき有難うございました。結婚30年になります。30年は真珠婚式です。妻に「30年は真珠婚式」と言ったら「真珠がほしい」と言われたので「ダイヤモンドまで待て」と応えました。ダイヤモンド婚は60年。もう30年仲むつましく歩みたいと思います。

・井原 健至君 結婚記念日のお花ありがとうございました。

(6) 幹事報告(吉田 和弘幹事)

・10月23日の料理研究会に10名のお申し込みを頂き有難うございました。本日お配りした週報に誤記がございました。料理研究会会長高橋康隆さんとありますが、正しくは幹事です。

(7) 会員スピーチ「短観からみる新潟経済」

日本銀行新潟支店長 千田 英継君

(8) 10月13日例会の出席率 77.42%

会員数96名(出席免除会員 9名)

出席者72名(出席免除会員4名を含む)

(2週間前メーク後 84.21%)

10月27日の予定

公開講演会(開場 13:30 15:00 開演 イタリア軒)

月見例会 (17:30 受付 18:00 開会 イタリア軒)

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>